

# ステレオ時代

STEREO GENERATION

neo

Vol.12



CDの可能性を  
教えてくれた  
フィリップスLHHシリーズ誕生の  
秘密に迫る!!

国産メーカー各社の  
カセット第1号破物語

ステレオ時代neo vol.12

体裁：B5正寸 オールカラー 136P

定価：1980円（本体1800円+税）

発行部数：3万部 発行形態：ムック

発売日：2026年3月5日 発売予定

⇒広告オーダー締切 2026年2月5日(木)

2026年のステレオ時代NEOも年4回の発行を予定しております。

## ■ 広告定価料金表 / 原稿サイズ ■

	掲載料金(税別)	原稿寸法(mm)	原稿締切日
表4	¥800,000	210×167	入稿締切日
表2	¥700,000	257×182	
表3	¥650,000	257×182	2/12(木)
4C1P	¥600,000	257×182	
4C1/2P	¥300,000	110×150(※)	※枠付き

拝啓

貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご厚情を賜り、誠に感謝いたしております。

このたび弊社では、1970～80年代の国産オーディオを楽しみ尽くすシリーズとして、「ステレオ時代neo」を発行します。当時名機と言われたコンポの開発秘話、最近再注目されているラジカセやカセットテープの話題など、かつてのオーディオ・ブームを知る人なら胸熱、知らない人なら新鮮なページ満載です。70年～80年代の国産オーディオ関連のビジネスを展開されているクライアント様においては、貴社宣伝媒体としてご活用くださいますよう、何卒ご検討のほど、宜しく願い申し上げます。

敬具

3万円でとりあえず聴くか  
30万円で一生モノを手に入れるか



ステレオ時代は安価な中古オーディオを楽しむことを推奨しているが、市場を見回すと、かつて胸をときめかせた名機たち、とくにハイエンドモデルはその数を減らしてきている。本当に良いものを手に入れられるのはそろそろ限界が近いのかもしれない。そこで今回は、安価なセットを組むのか、一点豪華主義に走るのか、2方面で提案したい。

高性能と洗練されたデザインのAKAIは  
なぜ歴史から消えたのか



かつて超優良企業として知られたAKAI。オープンデッキ、カセットデッキともトップブランドとして業界を牽引していたが、80年代半ばにいきなり失速。85年には三菱電機に吸収され、AKAIの名前は消滅してしまう。AKAIとはどんなメーカーだったのか。なぜ歴史から消えたのか。0Bの証言でその歴史をたどる。

【巻頭特集】国産オーディオ史上最大の謎  
ALPINE/LUXMANはいかにして誕生したのか



国産ハイエンドのラックスマンと、気鋭のカーオーディオ、アルパインがコラボしたALPINE/LUXMANの製品群。その誕生は謎が多い。わずか5～6年で解消した異色のコラボが両社、ひいては日本のオーディオ業界にもたらしたものは?



名機7909JはALPINE/LUXMANがなければ生まれなかった!?

その他、オーディオブーム世代に刺さる、  
・アナログオーディオ、カセットテープ、ラジカセなど懐かしいネタ  
・今時の「プチブラ」オーディオ など、他誌では読めない企画が満載です!

株式会社 三栄 第一営業企画局  
〒163-1126 東京都新宿区西新宿6-22-1  
新宿スクエアタワー26F  
email : koukoku\_01@san-ei-corp.co.jp



※企画内容は変更となる場合がございます。